

わくわく中国文化



—三国志から四字熟語を勉強しよう③—

Illustration by KOH_HSL(instagram)

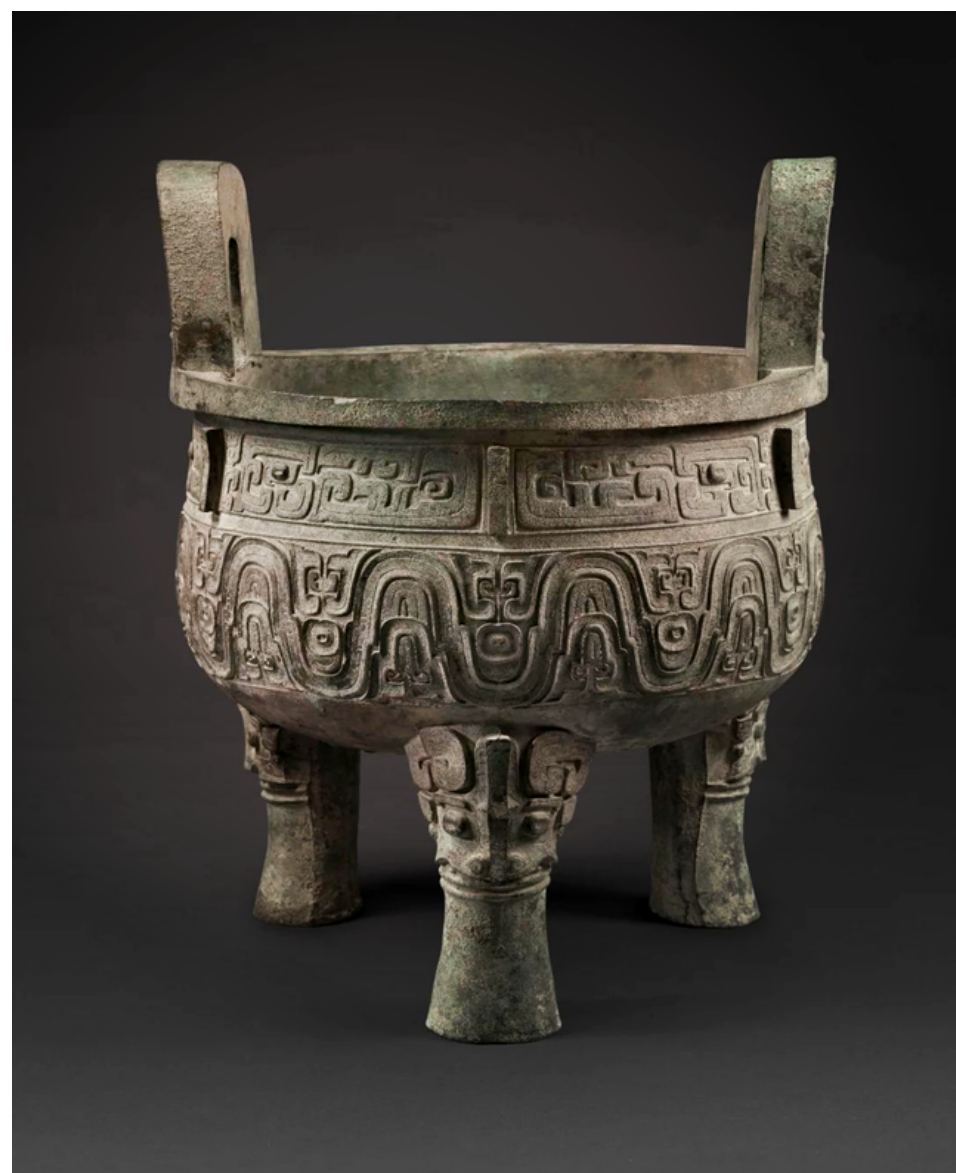
著者の一言



皆さん、四字熟語は難しいと思いませんか。中国語の四字熟語の多くは古書や典故から来ています。その由来を知っておけば、四字熟語も覚えやすくなると思います。今年度は日本でも有名な中国の「三国志」に関する四字熟語を紹介したいと思います。中国語をもっと上達させたい人や三国志に興味を持った人や四字熟語をもっと身につけたい人にふさわしい内容をたっぷり載せますので、ご覧いただければ幸いです。

鼎足之势 (dǐng zú zhī shì)

汉语成语，原指古代青铜鼎三足鼎立的形态，后引申比喻三方势力均衡并存的局面。该成语最早出自《史记·淮阴侯列传》，三国时期魏、蜀、吴三分天下的历史格局，成为该成语最具代表性的应用范例。



◀ 『青銅鼎』 / (Baidu)

三者鼎立 (さんしゃていりつ) ・ 鼎足の勢い

四字熟語です。元々は古代中国の青銅鼎が3本の足で立つ状態を指しています。その後、3つの勢力は均衡を保ちながら対立している様子を表します。この四字熟語は「史記・淮陰侯列伝」から出たものです。三国時代の魏・蜀・呉は天下を三つに分け合ったことから、この四字熟語の最も代表的な例になりました。

草船借箭 (cǎo chuán jiè jiàn)

《三国演义》中赤壁之战的一个著名典故。孙权手下大将周瑜，妒忌诸葛亮的才干。因水上交战需要弓箭，周瑜要诸葛亮在十天内负责赶造十万支箭，想借此除掉诸葛亮，诸葛亮说只要三天，还愿立下军令状，完不成任务甘受处罚。后来诸葛亮趁着大雾天气，用草船和战鼓诱敌，向曹操借到十万多支箭。

该故事可以引申为，遇到任何问题都不要先有心理压力，先自我打败，要多动脑筋，运用智慧，或可凭借他人之力（人力或财力）来达到目的。



▲ 『草船借箭』 / (Baidu)

草船借箭（そうせんしゃくせん）

中国の古典小説『三国志演義』に登場する有名なエピソードです。孫権の部下である周瑜は諸葛亮の才能を妬み、水上での戦いのため、10万本の矢を10日で用意するよう命じました。これは事実上不可能な要求で、失敗すれば諸葛亮は処刑される運命でしたが、諸葛亮は三日で十分、集められなかったら処刑という罰を受けると言い出しました。3日後の濃霧の夜、20隻の船で曹操軍へ向かって行って、10万本ほどの矢が借りられました。

このエピソードの寓意は何事にあっても、まずストレスを溜めずに知恵を使いこなして目的を達成するか、またはほかの人の力によって困難を乗り越えて目的を達成します。



▲『諸葛孔明』 / (Baidu)

刮目相看（guā mù xiāng kàn）

是一则来源于历史故事的成语，该成语最早出自于《三国志·吴志·吕蒙传》。吕蒙受孙权劝学后潜心读书，从武将转型为博学之士。鲁肃再遇时惊叹其才略，称“非复吴下阿蒙”，吕蒙以“士别三日，即更刮目相待”回应。

“刮目相看”指他人进步显著，需重新审视。



(Baidu) / 『孫権と呂蒙』 ▲

刮目して相待 （かつもくしてあいまつ）

歴史のエピソードに由来した四字熟語です。最初は「三国志・呉志・呂蒙伝」から出ました。東呉大将の呂蒙は呉王の孫権に勧められて、猛勉強を始めて、ただの武将から知識豊富な人になりました。呉の重臣である魯肃は、以前の呂蒙の知識レベルを知っていたため、彼の変化に驚いて、「もはや呉下の阿蒙ではない」と感嘆しました。これに対し、呂蒙は「士別れて三日、即ち更に刮目して相待つべし」と答えました。

この四字熟語は人が大きく成長したら、常に新しい目で見るとべきだという意味です。